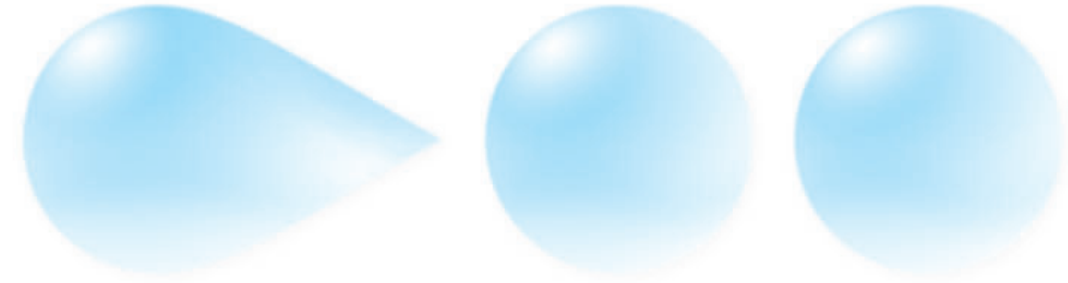


# 第65期中間報告書

平成21年4月1日～平成21年9月30日



## Ecologically Clean

### ホームページのご紹介

●TOPページ



<http://www.organo.co.jp/>

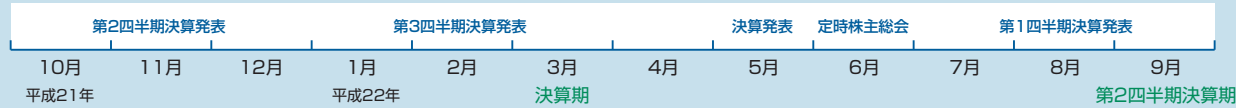


IRページ  
最新のIR情報を提供しております。

製品情報ページ  
水処理装置や水処理薬品などの各種取扱製品を掲載しております。

### IRカレンダー (平成21年10月1日～平成22年9月30日) ※平成21年12月4日現在の予定です。

- 第2四半期決算説明会
- 決算説明会
- 招集通知発送
- 中間報告書発送
- 決議通知・報告書発送



**オルガノ株式会社**

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111  
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



**オルガノ株式会社**

企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは  
かけがえのない地球の未来を見つめ  
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐のあり、誇りの持てる企業を目指す

株主の皆様へ



代表取締役社長兼CEO

橋本喜代志

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。  
ここに当社の第65期事業年度（平成21年度）中間期のご報告をさせていただきます。

1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国をはじめとするアジア経済の回復を背景に輸出・生産が改善し、一部に景気持ち直しの動きが見えつつあるものの、投資・消費の低迷や円高などの影響により、依然として厳しい状況が続いております。

当社グループを取り巻く市場環境は、企業収益の悪化や先行きの不透明感を背景に、民間部門の設備投資が大幅に減少しており、生産水準が回復しつつある中でも消耗品交換やメンテナンスなどの削減・規模縮小が見られるなど、引き続き非常に厳しい状況で推移しております。

このような状況のもと、当社グループは業務効率化による固定費の削減や、各種コストダウンによる原価の低減を徹底し、損益分岐点の引き下げに取り

組むとともに、省エネ・省コストや環境負荷低減へのニーズに応えるべく、顧客への提案活動を中心としたソリューション営業の強化や排水・回収処理技術の開発・体制の強化に取り組んでまいりました。

しかしながら、当第2四半期連結累計期間は大型設備投資が減少したことなどから、受注高240億円（前年同期比39.7%減）、売上高につきましては前期以前に受注した大型案件が順調に進捗したものの、メンテナンス・機能商品などが減少したことから235億円（同22.8%減）となりました。一方、利益面につきましては、厳しい収益状況を踏まえ、原価の低減及び固定費の削減に取り組んだ結果、当初予想より改善したものの、売上の減少が大きく影響し、営業損失3億円、経常損失4億円、四半期純損失3億円となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績及び通期の見通しを勘案し、前中間期から2円減配となる1株当たり4円とさせていただきます。

2. 通期の見通し

当社グループは引き続き原価の低減及び固定費の削減に注力してまいります。電子産業を中心にいまだ設備投資に回復の兆しが見えないことに加え、生産水準は回復しつつあるものの、景気の先行きは依然として不透明であり、下期以降も厳しい受注環境が続くものと予想しております。

通期の業績予想につきましては、受注高600億円（前期比7.5%減）、売上高600億円（同17.9%減）、営業利益15億円（同51.0%減）、経常利益13億円（同54.2%減）、当期純利益7億円（同56.7%減）を見込んでおります。

3. 今後の経営方針

経済のグローバル化が急速に進展する中、競争力強化のための企業間合併や設備の統廃合が相次いでいることに加え、市場としての中国・アジア地域の存在感が高まっていることから、生産・開発拠点の海外移転や現地企業との提携など、日本企業の海外進出が進んでおり、景気が回復したとしても、従来型の設備投資が大幅に回復することは期待できない状況です。一方で、日米の新政権が掲げる温室効果ガスの削減など、環境問題への新たな施策により、企業の生産・設備投資活動は質的にも大きな変化が迫られています。

当社グループはこうした環境の変化に的確に対応し、事業基盤の再構築に取り組んでまいります。顧客の省エネ・リサイクル・環境保全などのニーズは高く、それに応える水のリサイクルや排水・回収処理技術のより一層の強化を図ります。また、更なるコストダウン、標準製品のリニューアルなどを通じ、競争力あるコスト・品質を実現させ、産業全般に対して顧客を開拓するとともに、中国・アジア地域での水処理事業の強化を中心に海外事業の拡大をすすめます。

4. 最後に

当期は、当社グループにとって「生き残り」をかけた一年と位置づけており、グループ社員一同強い意思のもと、業績と企業価値の向上に挑戦してまいります。

株主の皆様におかれましても、今後ともますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成21年12月

## ▶ プラント事業

### 電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部環境へ排水を出さないクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



### 一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システムや、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



### 電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所における主要水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持。国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。



### 上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。その処理を担う浄水場では沈でろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理など、下水処理場では生物処理などオルガノの得意な技術が活用されています。



### 医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供します。



## ▶ ソリューション事業

### メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

### 提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良提案を行います。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

### 水処理アウトソーシング受託事業

#### ■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。



#### ■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

#### ■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、水処理装置の運転状況を遠隔監視し、警報通知を受け、早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブルを削減します。



#### ■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ **機能商品事業**

標準製品

純水装置はもちろん、水に新たな機能を付加する機能水製造装置など、短納期・低コストで豊富な商品ラインアップを有しており、電子産業から食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで、ニーズに合わせて広く用いられています。



キャビネットタイプ純水装置  
PROシリーズ

超純水製造装置  
SDAシリーズ

水処理薬品

冷却水処理剤・ボイラ処理剤・排水処理剤など水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

食品加工材の分野では、保水効果の高いリン酸塩が国内トップシェアの実績。その他様々な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。オルガノの技術は豊かな食文化の創造にも貢献しています。



イオン交換樹脂

**世界最大級のイオン交換樹脂精製工場**

当社は世界最大級のイオン交換樹脂精製の専用工場を茨城県つくば市に所有し、一般産業分野から電子産業、電力分野まで様々な分野で使用されるイオン交換樹脂を独自の精製技術で製造しています。半導体工場で使用される純水は技術革新に伴い、より純度の高い超純水が必要となりますが、つくば工場では、3年前より世界に先駆けて線幅32ナノ半導体に対応した超クリーンイオン交換樹脂「アンバージェットESPシリーズ」を製造しており、世界最高品質である超純水中の金属イオン濃度0.1ppt以下を実現させています。



**排水処理の新会社設立**

産業全般の中小規模事業所における省エネ、環境負荷低減のニーズに応えるため、東日本地区における中小型の排水処理案件を専門に手がける新会社「オルガノエコテクノ株式会社」を10月に設立しました。西日本地区については、オルガノ関西株式会社を中心に展開しており、今回の新会社設立によって、全国的な排水処理事業の強化・拡大を目指します。

新会社は当社子会社であるオルガノ東京株式会社の100%子会社として、東日本地区の地域統括会社と連携し、地域に密着した排水処理装置の製造・販売を展開し、主として食品・飲料関係工場などの有機性排水を対象に、生物処理や膜処理技術などを用いた装置の提案を行ってまいります。

なお、大型案件については、オルガノ株式会社が工場内の水全体のエンジニアリングに取り組み、幅広いソリューションを提供します。



有機性排水処理装置「アクチコンタクト」

**技術教育の強化**

水処理基幹技術教育を強化するため、教育カリキュラム、ESB (Engineering Seminar Basic course) を大幅に刷新しました。当カリキュラムは、営業部門、技術部門を問わず、主に若手社員を対象としており、水処理の原理から専門技術まで、従来と比べて質・量ともに大きく充実させた内容を学びます。本年は全18講座に、延べ1,400名以上のグループ社員が参加しました。高度な水処理技術の学習を通じ、営業担当者は提案営業の質を高め、技術担当者は技術力・解決能力を高めることにより、お客様のニーズに応える製品・サービスの提供をさらに進めてまいります。



講義風景

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (平成21年9月30日現在)	前期末 (平成21年3月31日現在)	比較増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	45,796	54,512	△ 8,715
固定資産	26,954	27,463	△ 509
有形固定資産	23,060	23,504	△ 444
無形固定資産	467	505	△ 37
投資その他の資産	3,425	3,453	△ 27
<b>資産合計</b>	<b>72,750</b>	<b>81,975</b>	<b>△ 9,225</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	25,075	32,697	△ 7,622
固定負債	8,705	9,700	△ 995
<b>負債合計</b>	<b>33,780</b>	<b>42,398</b>	<b>△ 8,617</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	38,773	39,479	△ 706
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	-
利益剰余金	23,348	24,051	△ 702
自己株式	△ 307	△ 304	△ 3
評価・換算差額等	△ 134	△ 220	85
少数株主持分	330	318	12
<b>純資産合計</b>	<b>38,969</b>	<b>39,577</b>	<b>△ 607</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>72,750</b>	<b>81,975</b>	<b>△ 9,225</b>

◆**流動資産**  
売掛債権の減少、仕掛品を中心としたたな卸資産の増加により8,715百万円減少しました。

◆**流動負債**  
仕入債務の減少などにより7,622百万円減少しました。

◆**固定負債**  
長期借入金の減少などにより995百万円減少しました。

◆**純資産の部**  
四半期純損失の計上及び配当金の支払に伴う利益剰余金の減少などにより607百万円減少しました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	比較増減
売上高	23,557	30,495	△ 6,938
売上原価	17,854	23,939	△ 6,084
売上総利益	5,702	6,556	△ 854
販売費及び一般管理費	6,099	7,245	△ 1,146
<b>営業損失(△)</b>	<b>△ 397</b>	<b>△ 689</b>	<b>291</b>
営業外収益	112	99	12
営業外費用	184	136	47
<b>経常損失(△)</b>	<b>△ 469</b>	<b>△ 726</b>	<b>256</b>
特別利益	44	30	14
特別損失	28	150	△ 121
<b>税金等調整前四半期純損失(△)</b>	<b>△ 453</b>	<b>△ 846</b>	<b>393</b>
法人税等	△ 99	△ 285	186
少数株主利益	2	19	△ 17
<b>四半期純損失(△)</b>	<b>△ 356</b>	<b>△ 580</b>	<b>224</b>

◆**売上高**  
前期以前に受注した大型案件が順調に進捗したものの、電子産業関連を中心に大型水処理設備の受注が減少したことに加え、メンテナンス・機能商品の売上が減少したことにより23,557百万円となりました。

◆**営業損失・経常損失**  
固定費削減や原価低減が奏功したものの、売上の減少が大きく影響し、営業損失397百万円、経常損失469百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,894	△ 1,863
投資活動によるキャッシュ・フロー	93	△ 3,601
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,733	2,896
現金及び現金同等物に係る換算差額	85	△ 14
現金及び現金同等物の増減額	338	△ 2,582
現金及び現金同等物の期首残高	7,551	7,781
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,890	5,199

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**  
1,894百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は売掛債権の減少によるものであり、主な支出は仕入債務の減少によるものです。

◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**  
93百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は定期預金の減少によるものであり、主な支出は有形固定資産の取得によるものです。

◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**  
1,733百万円の資金流出となりました。主な支出は借入金の減少及び配当金の支払によるものです。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べて338百万円増加し、7,890百万円となりました。

セグメント別業績

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前 期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
■ <b>受注高</b>			
水処理装置事業	16,312	31,233	48,340
薬品事業	7,731	8,641	16,548
■ <b>売上高</b>			
水処理装置事業	16,420	22,342	56,543
薬品事業	7,136	8,153	16,575
■ <b>営業利益又は営業損失(△)</b>			
水処理装置事業	△ 682	△ 1,225	1,858
薬品事業	284	536	1,201

【**水処理装置事業**】  
当事業においては、電子産業関連を中心に大型水処理設備の受注が減少したことに加え、メンテナンス・機能商品の売上が減少したことから、受注高16,312百万円(前年同期比47.8%減)、売上高16,420百万円(同26.5%減)、営業損失682百万円となりました。

【**薬品事業**】  
当事業においては、前年同期に比べ生産水準が低迷したことから、イオン交換樹脂・水処理薬品の売上が減少し、受注高7,731百万円(前年同期比10.5%減)、売上高7,136百万円(同12.5%減)、営業利益284百万円(同46.9%減)となりました。

注) 本報告書は決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)  
 創業 昭和21年5月1日  
 資本金 8,225,499,312円  
 従業員数 連結 1,708名 (単体 699名)  
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号  
 開発センター 相模原  
 工場 つくば、いわき  
 事業所 周南、長崎  
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo (Asia) Sdn.Bhd.  
 オルガノ東北(株) オルガノ(蘇州)水処理有限公司  
 オルガノ東京(株) オルガノ(タイ)株式会社  
 オルガノ中部(株) オルガノ(シンガポール)株式会社  
 オルガノ関西(株) オルガノ(中国)株式会社  
 オルガノ九州(株) オルガノ(台湾)株式会社  
 オルガノプラントサービス(株)  
 オルガノフードテック(株)  
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員

取締役社長兼CEO 橋本喜代志  
 取締役兼専務執行役員 鬼頭和夫  
 取締役 田代圓  
 取締役相談役 傳田正彦  
 取締役兼常務執行役員 近藤昭夫  
 取締役兼常務執行役員 田中康彦  
 取締役兼常務執行役員 飯塚廣  
 取締役兼常務執行役員 中村聖和  
 取締役兼常務執行役員 力武一夫  
 常勤監査役 小柴勲  
 監査役 川村克彦  
 監査役 吉田正俊  
 執行役員 飯泉俊一  
 執行役員 小暮茂隆  
 執行役員 毛利隆  
 執行役員 峯下幹雄  
 執行役員 浦井紀久  
 執行役員 渡辺大輔  
 執行役員 伊藤智章

(注1) 橋本喜代志及び鬼頭和夫は代表取締役であります。  
 (注2) 川村克彦及び吉田正俊は社外監査役であります。

■ その他グループ会社

(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo (Singapore) Pte Ltd  
 オルガノ・ハイテック(有) Organo (Thailand) Co., Ltd.  
 環境テクノ(株)  
 オルガノエコテクノ(株)  
 東北電機鉄工(株)

(注) オルガノエコテクノ(株) を平成21年10月1日に設立いたしました。

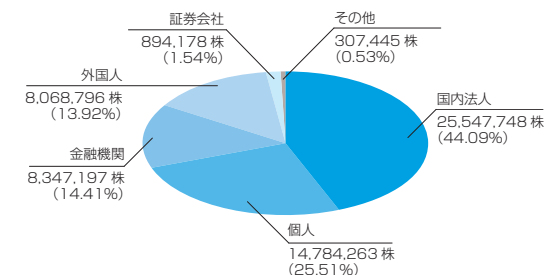
株式の状況

● 発行可能株式総数 126,960,000 株  
 ● 発行済株式総数 57,949,627 株  
 ● 株主総数 8,459 名

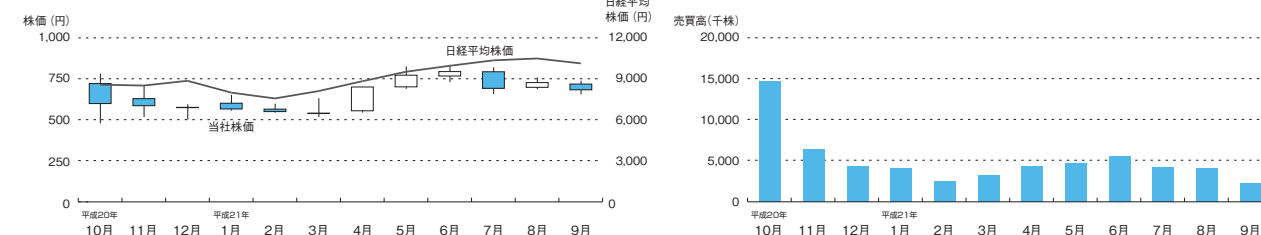
● 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ピクテ アンド シー ヨーロッパ エスエー	2,113	3.64
株式会社みずほ銀行	1,773	3.06
ザバンク オブ ニューヨーク・ジャスディック トリーティー アカウント	1,566	2.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,565	2.70
みずほ信託銀行株式会社	775	1.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	625	1.07
リーマン ブラザーズ インターナショナル(ヨーロッパ)	583	1.00
明治安田生命保険相互会社	549	0.94
エスジーエス ナント バイオニア ファンズ	483	0.83

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 6月  
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日  
 単元株式数 1,000株  
 公告掲載方法 電子公告  
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>  
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
 中央三井信託銀行株式会社  
 〒168-0063  
 同事務取扱所 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
 同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店  
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

株式に関する諸手続のお申し出先について

■住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。  
 ■証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行にお申し出ください。  
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話照会先 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
 ホームページアドレス [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)  
 ■未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である中央三井信託銀行の全国各支店でお取り扱いいたします。